

# 古河歴史見聞録

## 隆岱先生行状碑と南蛮外科栗崎流

慶応4(1868)年4月16日、日光東街道武井宿と北南茂呂村の間、台仙坊(現在は大戦防。以上いずれの地名も結城市)において、旧江戸幕府軍(伝習隊)と明治新政府軍の戦いがありました。

諸川町の組頭である館野家の日記「戊辰年日記」には、民間人の唯一の犠牲者として、北茂呂村の医者がいたことを記しています。長い間、この医者についての詳細は不明でしたが、地元の人から、「亡くなった医者の弟子たちが、明治期に、建立した供養塔が現存するよ」との情報がありました。



▶「戊辰年日記」(諸川館野家文書)

### 隆岱先生行状碑と戊辰戦争

先頃、日光東街道の歴史案内をするため、新聞社の取材に同行した際、その供養塔を訪れました。「隆岱先生行状」と題した石碑は、明治7(1874)年、関本上町(現在の筑西市関本上)の医者で学者の、元結城藩医浜名元知(迂庵)が碑文を書いたものです。

この碑文によると、大島隆岱は遠方にも知られた温厚な優れた医者で、台仙坊での激しい戦闘が村内に拡大するなか、患者の治療のために出かけ、その帰り道、雨のように飛び交う銃弾の中を匍匐で戻り、ようやく屋敷に辿り着くと直前に被弾、48歳で亡くなったとあります。

ところで石碑の裏面には、寺子屋の生徒を表す筆子100余名の住所・氏名が彫られています。このことから医者大島隆岱が寺子屋を開いていたこと、行状碑が、師匠隆岱の徳を称える「筆子塚」であることがわかります。



◀大島隆岱行状碑 (結城市北南茂呂)

### 石碑の裏面には…

隆岱先生行状碑の裏面には、筆子たちとは別に、恩名村の南蛮外科栗崎隆泉の名があり、両者共通の「隆」の一字からも、大島隆岱は、隆泉の弟子にあたる可能性が出てきました。

ところで南蛮外科栗崎流は、細かい系統など不明な点も多いですが、肥後・国・宇土郡栗崎村(現在の熊本県宇土市栗崎町)出身の初代栗崎道喜が、天正年間(1573年〜1592年)、ルソン島にわたる外科を学び、帰国後に始めたものです。初代道喜の孫で3代目の道有は元禄14(1701)年、江戸

城の松の大廊下で浅野内匠頭に斬りつけられ、負傷した吉良上野介の刀傷を治療しています。また、古河藩医の河口信任は、国替前の肥前唐津藩時代に、長崎の栗崎道意に入門し、栗崎流の免許皆伝を受けています。

さて、恩名栗崎氏は、栗崎道益が館林藩の藩医となり、後を継いだ子の道由が、病弱を理由に藩医を辞し、恩名村に移り住んで、隆松軒と名乗り、医業のかたわら私塾を開いたことに始まります。

その隆松軒の養子栗崎隆泉は後に、水口村(現在の八千代町水口)に移り、恩名は、隆松軒の甥の道賢が継ぎます。

隆泉は天保15(1844)年4月に、「南蛮栗崎流外科拔萃」を著し、門人に与えています。残念ながら栗崎隆泉と大島隆岱との師弟関係を示すものは、現状、この行状碑しかありません。

三和資料館学芸員 白石謙次

### 【一般書・小説】

カネと共に去りぬ

久坂部羊 著

ある朝、目を覚ますと、ベッドの上で自分の心が巨大な毒虫のように変わって…。文豪の名作を換骨奪胎し、現代医療の問題を鋭く扶する。「変心」をはじめ全7編を収録。「小説新潮」掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

出版社…新潮社

### 【一般書】

東芝の悲劇

大鹿靖明 著

東芝は、経済環境の激変や技術革新の進化の速度に対応できず、競争から落伍したわけではない。ただただ、歴代トップに人材を得なかつただけであった。20年にわたる徹底取材から東芝・失敗の本質を明らかにする。

出版社…幻冬舎

## 図書館の本棚から

### 【児童書】

数え方のえほん

高野紀子 作

牛は「1頭」と数えるのに、ひつじは「1匹」。どうして? 魚の数え方「尾・本・枚」の使い分けは? 数え方の基本から、大人も迷う難しい使い分け方まで、日本語の「数の数え方」が楽しく学べる本。

出版社…あすなろ書房

### 【絵本】

こなものがっこう

塚本やすし 作・絵

小麦粉の学校がありました。立派な「こなもの」になるための学校です。先生が「みんなは、どんな食べ物になりたいかな?」という、こどもたちは「うどん」「たこやき」「ドーナツ」などこたえて…。

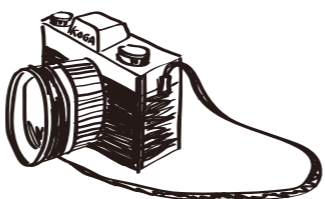
出版社…フレーベル館



中央公民館

## 古河今昔物語

Time Travel Photograph



提供: 鈴木一雄氏

昭和37年頃に総和村の香取小学校で行われた、合同七五三の様子です。大勢の子どもたちが記念撮影をした木造の学び舎は、昭和43年に名を釈迦小学校に改められました。50年以上経った現在も、当時と変わらない児童の笑い声が聞こえてきます。

